

琉球大学学術リポジトリ

化繊の取り扱いについて（十月号のつづき）

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 外間, 千代 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/19733

増加を図つておく。第二期を四〇日乃至五〇日とし蛋白質の給与量を増加して、大いに肥満の促進を図る。つまり牛が一番増体する時である。第三期を二〇乃至三〇日として増体量よりもむしろ肉質の改善をはかる。即ち肉繊維の間に脂肪の交雜を増加させるわけである。そのため蛋白質の量を減じ、甘藷のような良質の炭水化物を増飼する。肥育が進むに従つて体重の増加も次第に減少して行く。これは脂肪が筋肉中の水分を排除して更代するからである。そのため飼料の利用性も次第に低下して行くことになる。だからあまり長く肥育することは飼料経済上不利である。百日肥育に於ける増体量は普通一五〇斤から二〇〇斤であるが、時としては三〇〇斤の増体をみる場合もある。

三、飼料の与え方

肥育に用いる飼料は大量を要するため、安価でしかも栄養価に富んだ飼料を用いるよう心掛けることが大切である。高価な飼料を給与した場合、たまたま増体した価格よりも飼料費がト回り、利益を取ることがむずかしくなるから充分考慮する必要がある。普通一般に用いられる飼料としては甘藷、大豆粕米糠、ふすま、豆腐粕等である。飼料を与える場合は調理してから与え、牛の嗜好を増し食欲を増進させる。そのためには食塩、味噌、糖蜜又は糖類等の調味料を添加するとよい。なお甘藷は細切するか又は煮熱して与え、大豆粕は吸水性が大であるから数時間水浸して膨軟してから与える等常に消化の良いように努めることが大切である。給与回数は一、二、三回とし時間を定めて給与し方がよい。水は食後自由に飲ます。

参考のため一頭一日の給与量を示すと次の通りである。(ケルネル氏飼養標準より体重三三六〇斤として算出、単位斤)

青草	甘藷	大豆粕	米糠	ふすま
二八、〇	五、四〇、五四〇〇、五四〇〇、三六〇			

右の給与量は肥育牛の一般的なものであるが、肥育第二期に

化繊の取り扱いについて

(十月号のついで)

▲ナイロン

縫製

水通しの必要はありません。

アイロンをかけたときはきりふきし

て湿りを与え、あて布の上から生地に

直接ふれないようにかけることが大切

です。ほつれやすいので、これを防ぐ

処置を適切にして下さい。縫糸はナイ

ロン糸または絹の羽二重糸を用います

洗濯

洗剤と洗い方―洗剤の良質の石鹼ま

たは合成洗剤を選びます。洗剤の適当

な濃さは普通の汚れなら〇・三―〇・

五%を水又は微温湯にかかしたものが

適当です。この液中でふり洗い、特に

汚れたところは刷毛洗いをします。糊

つけの必要はなく、もみ洗いや強くね

じめるような絞りはさけて下さい。

漂白剤と漂白法―漂白剤はハイドロ

サルファイトを用います。用量は一

三%で摂氏六〇度位で扱うのが適当で

す。白物の場合に行うのですが、酢酸

を少量加えると効果的です。

オキシフルや、晒粉は地質を損うので

使用しないことです。

干し方と仕上げ―汚れを落しきれい

にすすいだ後、水気を振りきつて、よ

くしわをのばして干すのです。

吸湿性が少ないので乾きも早いのです

アイロン仕上げを行う必要はないので

ですが、もしアイロンをかけたときは生

乾きのときか、乾いてしまつてから全

面にきりふきして、あて布をおいた上

から生地に直接ふれないように仕上げ

をして下さい。

保存

汚れやシミをきれいに除いて形をく

ずさないように、軽くたたくみ、容器に

入れて保存します。防虫、防霉の必要

はありません。

以上で、ビスコース、レーヨン、ヘ

ンベルク、アセテート、ナイロン、ビ

ニロンの取り扱い方についてのべまし

たが、これらの繊維は混紡もあり、交

織もあり、樹脂加工等したのがありま

すので、化学繊維製品を買う場合には

注意が必要です。商品についている表

示に注意することです。織物の 反米

に、製造会社、商標、検査証、加工方

法、繊維の混用率などをかいたもの、

或は耳にマークを記したものに注

意して下さい。(終)

(外間 千代)

於ては青草量を減じて大豆粕の増飼を図つた方がよいと思う。又第三期に於ては肉質の改善を図る意味から大豆粕米糠の量を減じて甘藷、ふすまを増飼した方がよい。

飼料の給与をなすには体重を知る必要があるが、正確な体重は簡便器を用いなければわからないので一般飼育者としては不便である。その他に換算法もあるが計算が複雑なため日本の、農村で行われている最も簡単な方法を示すと、「胸囲を知り、胸囲六尺のものは普通体重一五乃至二〇貫にして、胸囲一寸を増減することに体重四貫目を増減するといふものである。」之に各種の条件を考慮して体重を決定する。

四、肥育牛の管理

肥育する場合は牛舎を暗くする習慣になつてゐるが、このように長期黑暗がりにおくと牛は其欲が減退して肥育の効果は上らない場合が多い。それで第一期、第二期に於ては牛舎内を明るくして食欲の増大を図り第三期に暗くする程度でよいと思ふいすれにしても牛が外部の騒音から隔離されることは大切である。この場合通風には充分気をつけて換気がうまくいくようにすべきである。

肥育中も一日三〇分程度の繋運動はさせられた方がよい。運動させることによつて新陳代謝を旺盛ならしめ食欲を増進する。然し肥育の末期は幾分控目にする。皮膚の手入も一日二回は励行する。牛によつては肥育が進むと肋骨に脂肪瘤の発生するものがあるが、手入によつて予防することが出来るといわれている。